



# さざんか

かとう学園 宗像市立河東中学校  
学校通信第43号(R6. 1. 12)



新年あけましておめでとうございます！  
～ 河東中生が心も笑顔も花のように“ほころぶ”年にしましょう～

## 生徒会専門委員長からのメッセージ Part 1

新しい専門委員長に就任した12人の  
意気込みを3回に分けてお伝えします。



【 体育委員長 上野 心陽 さん 】

こんにちは！新しく体育委員長に就任しました8年5組の上野心陽です。これから約一年間、新しい取り組みをつくったり、先輩方が作り上げてくださったこの河東中学校を皆さんと一緒により良いものにしたたりてできるよう頑張っていきます。また、委員会だけでなく生徒会役員としてどんなささやかなことにも耳を貸し、河東中生全員が過ごしやすいよう凡事徹底していきます。生徒会役員となり、至らない場面もあると思いますが、そのようなことが起こらぬよう一日でもはやく仕事を覚え、周りに目が配れるように頑張ります。一年間よろしくお願いします。

【 体育委員長 藤井 洵太 さん 】

こんにちは！このたび新しく体育委員長になりました藤井洵太です。生徒会での今年の目標は、去年より行事を盛り上げることです。そのために体育委員長が主に前に出る体育祭やクラスマッチなどで大きな声で声かけをしていきます！それ以外の行事でも積極的に仕事をし、裏方で仕事をする時もみんなが一番楽しめるように頑張ります。これからの一年間、新入生が入ってきたり、8年生は最上級生になり、7年生は先輩になります。新しい学年になって色々なことがあると思いますが、みんなが楽しく学校生活を送れるように全力でサポートします。一年間よろしくお願いします。



【 生活委員長 高 なつ さん 】

こんにちは！生活委員長になりました8年4組の高なつです。私の目標は「分かりやすく伝えること」です。そのために行う取組の目的をはっきりさせ、なぜ行うのか、どんな効果、変化があるのかを皆さんに伝えていきます。分かりやすく伝えることができるように準備を大切に頑張ります。また、河東中のいいところである明るい雰囲気を活かして皆さんが登校するのがもっと楽しくなるように、一生懸命活動します。生活委員会で新しい取り組みを行う予定なので楽しみにしててください！



【 生活委員長 壹岐 奏芽 さん 】

こんにちは。今年度、生活委員長になりました壹岐奏芽です。僕はこの一年で「工夫」を大事にしたいと思います。そして、生活委員会でも工夫をたくさんして、みんなが取り組みたくなるようなものを作り上げたいと思います。また、委員会の仕事以外にも生徒会全体の仕事を責任をもって行います。この一年を自分もみんなも充実したものにするために、一つ一つの仕事、取組に責任を持ち、今までよりもっといい生活委員会にできるように精一杯頑張ります。よろしくお願いします。



## 心も笑顔も“ほころぶ” 令和6年にしましょう！ ～青柳の糸よりかくる春しもぞ乱れて花のほころびにける～

今週から令和6年の学校が始まりました。河東中生のみなさんには、今年も勉強でも部活動やクラブチームでも大きく成長する一年になることを祈ります。また、みなさんが様々な場面で“ほころぶ”一年になることを願っています。

昔の日本人は“ほころぶ”という言葉を使っていたようです。近年は聞き慣れない言葉になったようです。辞書をひも解けば、“ほころぶ”には3つの意味があります。①布や糸の縫い目がほどける。②花の蕾（つぼみ）が少し開く。咲きかける。③表情がやわらぐ。笑顔になる。今回、話題にしたいのは②と③です。梅や桜の花がもうすぐほころんでいきますが、そのようにみなさんの心や笑顔がほころんでほしいと思います。もちろん、9年生は志望校合格でほころびましょう。



およそ1100年前に編さんされた『古今和歌集』には、この“ほころぶ”という言葉が使われた美しい歌がいくつか登場します。最も有名なのは冒頭にあげた選者の一人、紀貫之の歌です。

### 青柳の糸よりかくる春しもぞ乱れて花のほころびにける

歌の意味は、「柳が若い芽を伸ばし、その細い糸で縫おうとしている春だから、花々は思い思いにつぼみをほころばせてきたのだな」というものです。長い冬が終わり、陽気な春が訪れます。青々とした春のやわらかい柳がまるで糸みたいです。その柳のか細い葉の糸を、ぬったりかけたりするかのようにして、やさしく春風の吹くこの春、乱れ咲くように花が咲きほころんだ様を表現しています。歌の名手、紀貫之らしく柳の緑と梅や桜の白や淡い桃色または紅色といった「静」のコントラストを連想させます。対照的に、芽吹いたばかりの青柳の細い枝を糸に見たて、布地を織るような想像の中で、春風はそれを振り切って流れる「動」も描いています。何よりもこの歌に引き付けられるのは、やはり花のほころびという言葉ではないでしょうか。「花が開く」や「花が咲く」ではなく、ほころぶという言葉の響きと言葉の持つ複数の意味が効いていると思います。糸や布がほころぶように、春や花がほころぶ。そう表現したところにこの歌の美しさがあるように思います。

「ほころぶ」という言葉。花などが開いて咲き始めることですが、固いものが解きほぐされるという意味を持ちます。花の蕾というのは固いものです。大切な花として咲かせるには蕾を守らねばなりません。だから固くなって守られています。「ほころぶ」という言葉のイメージは、まだ雪も残り寒い中で咲き出すイメージです。このようなまさに冬から春への移り変わりの情景をよむに適した言葉といえるでしょう。

河東中生のみなさんも冬の間、寒さに耐え、勉強を頑張り、部活動やクラブチームで切磋琢磨し、あるいは受験勉強を精一杯取り組んできました。これから春を迎えるにあたってこれまでの努力がほころんでいくでしょう。まさに、「ほころぶ」という言葉のように、努力を積み重ねることで頭も体も心もこぼれていたものが、かたく結ばれていたつぼみや表情が少しずつほどけはじめ、やがて満開に、そして笑顔になるでしょう。もうひと頑張りして、季節を同じくしてほころんでいくのを待ちましょう。

春は、もうそこまで来ています。